



六花会だより

爽風

ホームページ <http://www.rikkakai.jp>

第 41 号
2015/1/9
医療法人六花会
館林記念病院
広報委員会



新年のご挨拶



院長 堀越 裕一

新年明けましておめでとうございます。

今年こそ希望に溢れた一年でありますよう神仏にお願い致しました。我国は高齢化の進展にともない、2025年には高齢者の人口が総人口の3分の1に達する見込みです。

これを見越して、医療制度の大転換が昨年よりはじまりました。当院においても、地域包括ケア病棟が導入されました。耳慣れない言葉ですが、厚労省がこれからの高齢者に対応した医療の切り札として推奨している病棟であります。手厚い看護、介護、リハビリのもとに、在宅復帰をはかる病棟といえます。当院においても高齢化に対応して、入院設備を改良し、進歩した医療機器をとりいれ、食事内容にも気を配り、地域医療に一層の貢献を果たしたいと思っております。

本年も宜しくお願い申し上げます。



病院理念 「心に残る医療を提供する」

基本方針

1. 地域社会に開かれた病院
2. 当院を利用される方に安全・安心を与えられる病院
3. 常に新しい医療を提供する病院
4. 当院を利用される方達が気楽に利用しやすい病院
5. 当院を利用される方が満足を得られる医療を提供する病院
6. 職員をはじめ当院に関わる人達も満足を得られる病院





副院長 新出 理

新年あけましておめでとうございます。

皆様にとって昨年はいかがだったでしょうか？

昨年は広島土砂災害や御嶽山の噴火などの自然災害により一瞬で失われた尊い命に涙した方も

多かったのではないのでしょうか。命のはかなさや大切さを改めて考えさせられました。暗いニュースばかりではありませんでした。テニスの錦織圭選手の活躍やソチオリンピックでのスキーマシエの葛西紀明選手、スケートの羽生結弦選手や浅田真央選手をはじめ数多くの選手が奮闘する姿に感動しました。また、富岡製糸場の世界遺産登録、青色発光ダイオード（LED）を開発しノーベル物理学賞を受賞された赤崎勇先生、天野浩先生、中村修二先生の快挙に勇気を貰いました。今年も元気を貰えるニュースが皆様にも多く届けられることを期待致します。

館林記念病院は医療、介護、リハビリテーションを軸とし地域社会に貢献することを使命と考えています。患者様、御家族、職員が命の尊さや生きていることの素晴らしさを実感出来るように、我々職員は専門的知識・経験の獲得と実行に一層努力し、理念である「心に残る医療を提供する」ことを誓います。最後になりましたが、2015年が皆様にとって希望に満ち溢れた年となることを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

インフルエンザにご注意！！

インフルエンザはインフルエンザウイルスによって引き起こされる急性感染症です。インフルエンザウイルスは、A型、B型、C型があり、大きな流行の原因となるのはA型とB型です。

症状は38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。のどの痛み、鼻汁、咳などの症状も見られます。実際には症状からは他の病気との区別はつきにくく、37℃ぐらいの方もいます。例年12月～4月に流行しますが、今年は11月頃より流行した地域がありました。

予防策は流行前のワクチン接種（遅くとも12月上旬）、外出後の手洗い、うがい、適度な湿度の保持（50%以上）、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出を控えること、マスクの着用などです。インフルエンザにかかったかな？と思った時は病院を受診して下さい。発症後（発熱後）約6時間経過してから検査を受けて下さい。早すぎると正確に判定出来ません。治療は、特効薬に飲み薬、点滴があります。適切な時期（発症・発熱から48時間以内）から治療を開始すると効果が期待出来ます。

大事なことは、かからないこと（うがい、手洗い、マスク）とワクチンです。

つらい冬を乗り越えましょう！！

